

AIR

それが意味するもの

The Exhibition of Artists in Residence Program 2009/ Autumn

Home

国際芸術センター青森 秋のアーティスト・イン・レジデンス展

参加アーティスト

Cornelia KONRADS 【コーネリア・コンラツ／バード・ミュンダー、ドイツ】

OH Haji 【呉 夏枝／大阪】

ONISHI Yasuaki 【大西 康明／大阪】

PARK Hyesoo 【パク・ヘイス／ソウル、韓国】

展覧会
2009 11.14 sat
:
12.13 sun

午前10時—午後7時 会期中無休・入場無料



Aomori Contemporary Art Centre
国際芸術センター青森

主催 青森公立大学、国際芸術センター青森AIR実行委員会

Home

それが意味するもの

関連イベント

オープニング・レセプション

コーヒーサービスあり

11月14日(土) 午後1時30分～ 展示棟ラウンジにて

アーティスト・トーク

参加アーティストによる作品解説。(申込み不要。直接会場にお越しください。)

11月14日(土) 午後2時～3時 ギャラリーA&Bにて

レクチャー

それぞれの作家がこれまでの作品や作品制作の意図についてのスライドレクチャーを行います。(申込み不要。直接会場にお越しください。)

11月23日(月・祝) 午後2時～4時

バク・ヘイス レクチャー&アートプロジェクト

「あなたの香りを尋ねます」(スライドレクチャーの前に、アーティスト調香によるその人個人の香りを作るアートプロジェクトを実施します。)

11月28日(土) 午後2時～3時

呉夏枝(オ・ハジ) 「記憶をつなぐー自作より」

11月29日(日) 午後2時～3時30分

コーネリア・コンラツ

「上がることと落ちることの間に一とある風景の中の彫刻」

12月12日(土) 午後2時～3時

大西康明「作品について一手がかりをつくること」

ファミリー・ワークショップ

11月27日(金)午後5時までにお申込みください。

「写真を使って家族時計をつくろう!」

12月5日(土)午後2時～午後4時

講師/バク・ヘイス 定員/20名 要申込 参加費/800円
ご自分の家族写真をコラージュしてオリジナルの家族時計を作ります。
※大人の方お一人でもご参加いただけます。

学芸員による作品解説

申込不要。直接会場にお越しください。

12月13日(日) 午後2時～3時

アート・ドキュメンタリー映像上映

12月13日(日) ①午前11時～ ②午後3時～ ③午後5時～

「The Gate(入り口)」2004年(約40分)

アントワヌ・ドゥ・ロー監督、コーネリア・コンラツ出演

■アーティスト・イン・レジデンス(AIR)展とは?

国際芸術センター青森は、アーティスト・イン・レジデンス(AIR)を中心プログラムとした施設として2001年に開館しました。AIRでは、さまざまな芸術の分野で活躍するアーティストが国際芸術センター青森に滞在しながら作品制作を行います。プログラム期間中は、招聘したアーティストの滞在制作を支援するとともに、滞在アーティストによる展覧会の開催、ワークショップ、レクチャーといった交流プログラムの実施など、さまざまな芸術体験の場を設けています。本展は、9月24日より国際芸術センター青森で滞在制作を行った4人のアーティストによる展覧会です。

■お問い合わせ・青森公立大学国際芸術センター青森

〒030-0134 青森市合子沢字山崎152-6

TEL/017-764-5200 FAX/017-764-5201

E-mail:acac-1@acac-aomori.jp http://www.acac-aomori.jp/

Home(ホーム)は、単に住居としての「家」だけではなく、さまざまな意味を含み持ちます。帰るべき場としての「故郷」、なにものかが発生した地としての「出発点」、あるものと敵対した結果の認識としての「こちら側」、あるいは「精神の安住の地」など。それは社会構成の基本単位としての「ファミリー(家族)」とは違い、「自分の立ち位置」を見定めるためのどこか漠然とした、しかしとても根本的な「何か」を指しているかのようです。それゆえに例えば「ホーム」の喪失は、単に物理的に住居を失うこと以上の、複雑な局面と深い意味をもつのでしょうか。あなたにとって「ホーム」とは、何を意味するのでしょうか。今回のアーティスト・イン・レジデンス・プログラムでは、この「Home」を手がかりに展覧会を構成します。



《The Gate (入り口)》
石、鉄、コンクリート、2004年

コーネリア・コンラツ

Cornelia KONRADS (バード・ミュンダー/ドイツ)

1957年ドイツ・ヴッパータール生まれ。エッセン大学で哲学とドイツ文学を学んだ後、ヒルデハイム大学で応用芸術と化学を学ぶ。近年は場所を重視した野外彫刻を制作しており、その場所にある建築物、地形、歴史、植生などを調査した後、通常の風景に何か異質な要素を導入させることにより、予期された日常的な秩序をずらしていく。2005年「KAIRー神山アーティスト・イン・レジデンス・プログラム」(徳島)、2007年「開渡国際野外彫刻展」(開渡自然公園/台北・台湾)ほか。



《不在の存在》
ポリエステルオーガング、真綿、絹糸、2008年

オ・ハジ

呉 夏枝(大阪)



1976年大阪生まれ。京都市立芸術大学美術研究科博士課程在籍中。主に布を用いて、刺繍・染織という手法により作品を制作する。社会的な帰属性と個人的な物語を同時に表しうる衣服(民族服)を用い、自己と他者、個と社会の関係性の問題を、それらが与える社会通念としてのイメージとは別の側面から提示しようとする。2005年「ZONEーpoetic momentー」(トーキョーワンダーサイト/東京)、2006年「√rootーわたしのの中の日本的なものー」(法然院/京都)、2008年「HIROSHIMA ART DOCUMENT2008」(旧日本銀行広島支店/広島)ほか。

1979年大阪府生まれ。京都市立芸術大学大学院美術研究科修了。目に見えないことや見えないことに対する関心から、時間や現象を、空間に浮かぶ点や線、面といった「手がかり」に置き換え作品として作り出す。2007年第10回岡本太郎現代芸術賞展・太郎賞受賞。2005年個展「INAXギャラリー2/東京」、2009年SU・MBISORI (Jeju Museum of Art/済州・韓国) ほか。

おおいし・やすあき

大西 康明(大阪)



《floating square mountain》
グルー、ポリエステルシート、2009年

バク・ヘイス

PARK Hyesoo (ソウル/韓国)

1974年韓国、ソウル生まれ。梨花女子大学、彫刻科修了。コミュニケーションの欠落、不在といった日常の小さな疑問に耳を傾け、そこから作品へと展開していく。2007年「Art Process Trapani 2007」(Palazzo della Vicaria, Trapani in Sicily, Italy)、2009年「International Incheon Women Artist's Biennale」(仁川/韓国) 参加ほか。



《beautiful sorrow (美しき悲しみ)》
塩、木、2007年

